

ラテンアメリカでせめぎあう進歩と反動

現在、ラテンアメリカ・カリブ海地域に置かれている米軍基地は、エルサルバドル、コスタリカ、ホンジュラス、コロンビア、ペルー、パラグアイ、キューバの 7 カ国とアルバ、キュラソー、プエルトリコの 3 地域にある 13 基地です(下記の表を参照)。

これに昨年 8 月に締結されたコロンビアの 7 基地を加えれば、合計 20 基地となります。さらに、親米政府となったパナマと 4 基地の設置交渉が現在行われており、それが締結されれば、24 基地となります。また、08 年の 7 月には、米軍の原子力空母「ジョージ・ワシントン」を旗艦とする第四艦隊が 48 年ぶりに復活され、昨年 5 月には、演習ウニタス 50-09 が、米国、カナダ、チリ、コロンビア、ペルー、メキシコが参加して行われました。また、オブザーバーとしてアルゼンチン、ウルグアイ海軍の将校も参加しました。その上 5 月には米空軍増強計画も作成され、ラテンアメリカ諸国に警戒感を引き起こしています。

米南方軍司令部予算は、財政困難な中でも 2010 年度 2%増大し 2 憶ドルとなっています。国務省及び海外の親米支援組織に送られる米国国際開発庁(USAID)の予算も、2%増額されています。こうした米国政府の政策は、地域における革新政府の進出による「裏庭」の失地回復、革新政権下にある石油などの経済資源の確保にあることは明白です。米国による隠然としたあるいは公然とした全面的な反攻が始まっているのです。昨年のパナマの大統領選挙での反動派の勝利、ホンジュラスの保守派・寡頭制勢力・軍部がクリントン国務長官、コスタリカのアリアス大統領とアメリカのシナリオで共演したホンジュラスのクーデターは、それらの例です。



一方、ラテンアメリカでは、米国のこうした巻き返しに対して、各国の国民の変革への期待は変わらず(新自由主義の深刻な被害からして変わりようありませんが)、昨年は、3 月エルサルバドルでファラブンド・マルティ民族解放戦線のフネスが大統領に当選し、6 月には米州機構でキューバの復帰が満場一致で決議され、11 月にはウルグアイでムヒカが拡大戦線の大統領職を堅持し、12 月には、モラーレス大統領が圧勝して大統領に再選され、変革の流れが、変わらないことを示しました。

また、米国の覇権主義に対して、ラテンアメリカの各国の民族主権を守る主張、ラテンアメリカ諸国民の米軍基地に反対する動きも強くなりました。昨年 8 月の南米諸国連合(UNASUR)首脳会議(加盟 12 カ国)では、最終宣言に外国軍事基地反対の文言を導入するかどうかをめぐって、7 時間に



わたり激論が交わされました。コロンビアのウリベ大統領を除き 11 カ国がなんらかの形で外国軍事基地反対を主張し、最終的にウリベも「コロンビアの米軍の施設は軍事基地ではない、麻薬・ゲリラ対策の協力施設である」と言い逃れをせざるをえませんでした。するとボリビアのモラーレス大統領が、「ウリベが軍事基地でないといっているのだから、それを

検証するシステムを UNASUR に作ろう」と発言し、最終宣言で検証システムの創設が決議されました。同時に、加盟国の核兵器非保有、紛争の平和的解決、各国の主権尊重、内政不干渉の原則も確認されました。

この会議で、外国軍事基地反対を明確に主張したのは、アルゼンチン、ボリビア、エクアドル、ウルグアイ、ベネズエラの 5 カ国。コロンビアに外国軍事基地設置の再検討を促したのはブラジル、ガイアナの 2 カ国。コロンビアの米軍基地が、他国への脅威となつてはならないと主張したのはチリ、パラグアイ、ペルー、スリナムの 4 カ国。コロンビアの米軍基地は、軍事基地でないので問題なしとしたのはコロンビアの 1 カ国。コロンビアの孤立が印象的でした。



また、12月に開催された第8回米州諸国民ボリーバル同盟（ALBA）では、米国をはじめとする外国軍事基地反対、麻薬対策を口実とした米軍の駐留反対が決議されました。ALBAには、ボリビア、キューバ、ニカラグア、ベネズエラ、ドミニカ、ホンジュラス、セントビンセント、エクアドル、アンティグア・バーブーダの9カ国が加盟しています。

このように、ラテンアメリカ 33カ国のうち、13カ国は、はっきりと米軍事基地反対の意向を表明し、17カ国は一定の反対の意思を示しており、賛成は、コロンビア、パナマ、コスタリカのわずか3カ国です。また、ラテンアメリカでは、各国の自決権を認める点では、昨年6月に米州機構(OAS)でキューバの復帰が米国も含めて満場一致で決議されたように、米国は、もはや公然と覇権主義的な言辭を弄することはできなくなっています。昨年12月にクリントン国務長官が、ラテンアメリカの国がイランと親交を結ぶことに警告を発したとき、たちまち一斉に各国から非難の声があがりました。

ラテンアメリカでは、現在、進歩と反動の対決が渦巻いています。歴史は、一路、進歩の方向にはなかなか進むものではありません。より良い世界、より公正な社会を望み奮闘する人びとがいる一方、それまでの特権や利害にしがみつき、それを維持しようとする人びとがおり、いわば革命と反革命の激しいせめぎ合いが、目に見えぬ形で、あるいははっきりと見える形で行われています。進歩は、各国の国民の自主的な努力を基礎とするものの、反動の側が巧みに各国とあるいは反動勢力と連携を取って反攻を行っている現在、進歩の側の国際連帯の強化が望まれています。しかし、それはどの国も、どの勢力も指導的立場に立つことなく、またみずからの立場を他国に押しつけることなく行われなければ、真に対決できる大きな力にはならないことを地域の歴史は示しています。

(2010年1月2日記)

国	基地名	駐留兵員数	主要軍備・施設	備考
エルサルバドル	Comalapa		衛星による監視 CSLs	2000年から。
ホンジュラス	Soto-Cano (Palmerora)	600人	レーダー基地、ヘリコプター訓練基地、戦闘機18機	もともとコントラの訓練基地
コスタリカ	Liberia		レーダー基地	コスタリカ人軍事訓練も行う
コロンビア	Arauca	合計従来800人、ブッシュ、1400人に増加	対麻薬作戦	石油地帯
	Larandia		ヘリコプター基地	B-52の着陸可能
	Tres Esquinas		対ゲリラ用	米軍支援基地
コロンビア	新 Palanquero	2,000人宿泊可能。軍人800人、民間人600人	空軍基地 C-17, P-Orion 3, Awac 3000mtrs 滑走路	コロンビアの米軍基地の中心となる。09年8月署名
	新 Apiay, Malambo, 新 Tolemaida 新 Larandia 新 Cartagena 新 Málaga		空軍基地 陸軍基地 陸軍基地 海軍基地 海軍基地	2009年8月署名
ペルー	Iquitos		ペルー軍に所属基地だが、米軍使用	アマゾン地区、ペルー軍の訓練も行う。
	Nanay		ペルー軍に所属基地、米軍使用	アマゾン地区、ペルー軍の訓練も行う。
パラグアイ	Mariscal Estrigarribia	500人海兵隊	空港 3,800メートルの滑走路があるが、ほとんど使用されていない。	2万人収容可能。アルゼンチン、ボリビア、ブラジルと国境を接する。2005年基地協定締結
キューバ	Guantánamo	1,016人	海軍基地	1903年から
アルバ（蘭領）	Reina Beatriz		衛星による監視、CSLs	
キュラソー（蘭領）	Hatos		衛星による監視、CSLs	
プエルトリコ(米領)	Fort Buchanan Luis Muñoz Marin NG Fort Allen Vieques	2,143人 1,666人 1,252 8,988人(プエルトリコ全体)	陸軍 空軍基地 陸軍	西半球最大の演習場
パナマ	4基地	新設予定		

FOL : 前方作戦拠点⇒Cooperative Security Locations (CSLs) : 協力安全保障拠点
ラテンアメリカ・カリブ海地域には、8,500-10,500 U.S.の米軍要員が駐留
出典 : 各種資料から新藤作成。